

3章 計画の基本方針

■計画フレーム

目標年次 : 平成44年(2032年) 15年間
計画対象区域 : 大津市全域 46,451ha
人口の見通し : 319,000人 平成44年(2032年)

1. 基本理念

「緑」に関する本市の特性や、第3次大津市緑の基本計画以降の実績などをふまえ、第4次大津市緑の基本計画においては、次のように基本理念を掲げます。

「水と緑が人を育む 持続可能なまち 大津」

～市民とともに緑を守り 人をひきつける 自然・歴史・文化のまち～

2. 基本方針

本計画の基本理念に基づき、取り組みの基本方針を以下のとおり設定します。

基本方針1 緑の骨格の保全・・・大津の自然を基盤とした豊かな緑

施策 1) 琵琶湖岸の保全と活用

- ① 湖岸の景観・環境保全
- ② 都心エリアの湖岸緑地の活用
- ③ 湖岸緑地の調和ある土地利用の推進

施策 2) 河川の自然的環境の保全と活用

- ① 協働による河川緑化・清掃の推進
- ② 生物への配慮

施策 3) 丘陵地の生態系の保全と防災機能の確保

- ① 丘陵地の生態系の保全
- ② 丘陵地の防災対策の推進

施策 4) 山並みの緑の確実な保全と活用

- ① 山並みの緑の確実な保全
- ② 協働による生態系保全と環境学習の実施
- ③ 開発に伴う環境の保全

基本方針2 都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

…持続可能な活力と魅力に満ちた緑

施策 1)人口減少などの社会状況の変化に対応した都市公園などの見直し

- ① 各公園の将来を見据えたマネジメント計画の推進
- ② 都市公園及び児童遊園地の配置や機能の見直し
- ③ 地域の状況にあわせた公園施設の再編
- ④ 防災機能の確保
- ⑤ 防災公園の市民利用の促進

施策 2)市民や民間事業者との協働による管理・運営の推進

- ① 地域住民による維持管理の仕組みづくり
- ② 公園を活用したカフェ・レストランの設置検討

施策 3)緑のネットワークの充実

- ① にぎわいづくりへの寄与
- ② 自然・歴史資源を生かした利用空間の拡大と総合的な地域の魅力向上
- ③ エコロジカルネットワークの形成に寄与する緑の機能の向上

基本方針3 協働による緑のまちづくりの促進…ともに作り交流の舞台となる緑

施策 1)愛護会や緑の市民活動団体への参加促進、支援の充実

- ① 緑のまちづくりへ市民が幅広く参加できる制度の構築
- ② 緑の市民活動の情報発信・交流の場づくり
- ③ 地域住民による公園・緑地などの維持管理の推進と緑のコミュニティの育成

施策 2)住宅地や中高層建築物、工場などの敷地内緑化の推進

- ① 緑地協定の締結促進
- ② 都市農地の保全・活用
- ③ 市街化区域の緑化に寄与する建築物への緑化推進

施策 3)教育機関や企業などによる緑の市民活動への協働支援

- ① 協働による緑化施策の推進
- ② 多様な主体の連携・交流による公園緑地での活動推進
- ③ 公園緑地を活用した子ども達への環境学習の実施と緑の市民活動の啓発

施策 4)子どもが育つ場としての公園緑地を支える仕組みづくりの推進

- ① 身近な公園での地元自治会と子ども達の交流の推進
- ② 多様な主体の連携・交流による公園緑地での活動推進

基本方針1) 緑の骨格の保全…大津の自然を基盤とした豊かな緑

市域全体での緑の割合は 8 割を超えているものの、森林や農地の減少が続いています。また、市街化区域における緑の割合は 2 割に留まっており、景観や生態系に関する機能の活用が不十分という現状があります。

アンケートなどから市民の皆さんが、山並み、琵琶湖、河川、農地、公園・緑地などを、大切にしたい大津の緑として捉えていることがわかりました。一方で、市内の緑の減少や荒廃を懸念しており、緑に対する満足度は 6 割に留まっています。

そのため、法等によって守られた地域制緑地の確実な維持保全を基本とし、減少傾向にある森林や農地等の緑について保全を図るとともに、河川や湖を中心に適正な維持管理を行うことで、市域全体に緑の効果を高めることのできる骨格形成を図ります。

あわせて、グリーンインフラストラクチャーによる、持続可能で魅力ある地域づくりを進めます。

基本方針2) 都市公園などのマネジメントの強化と多機能化

…持続可能な活力と魅力に満ちた緑

都市公園整備については、量的目標をほぼ達成しましたが、地域毎の特色の違い、市民ニーズや維持管理面などへの対応が必要です。人口減少や少子高齢化、観光振興やにぎわい向上など、新たな社会状況への対応も求められています。

アンケートなどから市民の皆さんが、身近な公園を散歩や休憩、季節感や景観美を楽しむ場として利用していきたいと考えていることがわかりました。また、公園の役割として、防災をはじめ、遊びや自然へのふれあいを通じた子ども達の成長の場や、高齢者や若者などの地域活動や交流の場となることを望んでいることがわかりました。

そのため、利用者の多様なニーズに応えるよう、既存公園の役割の見直しや施設改善をはじめ、都市計画公園の活用や見直し等を進めることで、緑がもつ幅広い機能を発揮させるとともに、効果的でメリハリある公園利活用を図ります。

既存公園を対象に、地域の状況やニーズに沿った維持管理を行い、遊具の安全確保や、樹木等の適正な育成等を図ります。民間活力の活用や市民との協働を進めることで、持続可能で魅力ある公園づくりを進めます。

都市公園等の緑の拠点と、河川や湖岸の緑地のネットワークの活用と充実により、総合的な地域の魅力と緑地の機能の向上に努めます。

基本方針3) 協働による緑のまちづくりの促進…ともに作り交流の舞台となる緑

緑の市民活動の担い手は、高齢者の割合が高く、働く子育て世代や若者世代の参加推進、行政支援、利用者マナー向上が課題となっています。一方、公園愛護会の中には指定された公園以外でも清掃を実施したり、花と緑のまちづくり活動団体の中には子ども達などへの環境学習を実施する団体が見られるなど、活動の広がりが見られます。

アンケートなどから、市民の皆さんが、美しいまちづくりや活動を通じた交流などに喜びを感じ、参加の少ない子育て層や若者も、地域に支えられた遊びや近所づきあいなどを望んでいることがわかりました。

そのため、緑のまちづくり活動へ市民が幅広く参加できる制度の構築や、情報提供の充実を進めます。

市街地の緑地の充実のため、公共公益施設の緑化はもとより、未利用地も含めた民有地の緑化や緑地保全を進めるための仕組みづくりや啓発を行います。

教育機関や企業等への協働支援により、緑のまちづくり活動への理解や参加を促し、多様な主体の連携・交流と、次世代を担う子ども達への緑の市民活動の啓発を行います。

また、大学 NPO 等との協働や、地域のコミュニティ拠点としての公園緑地の育成を図りながら、子どもが育つ場としての公園緑地を支える仕組みづくりを進めます。

コラム

湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～

大津市の琵琶湖岸は、近年の都市化の影響で、自然の姿が失われつつありますが、市域の北西部を中心にヨシ帯が残り、琵琶湖の原風景が美しく保たれています。

ヨシが群生しヨシ帯になると、次の機能をもつといわれています。

1) 湖辺の生態系の保全

魚類や鳥類など、生物のすみかや産卵・繁殖場所となり、生態系を保全します。

2) 水質浄化

ヨシ帯にすむ生物やヨシ自身による栄養分の吸収が、浄化に役立ちます。

3) 湖岸保全

波を弱めて岸辺の土が侵食されることを防ぎます。

ヨシが枯れる冬季に刈り取り、焼くことにより春先の発芽が促進され、良いヨシの成長が期待できます。しかし、近年ヨシの需要が減少したことで、自然のままに放置されることが多くなっています。

そこで大津市では市民の皆さんと協働し、平成2年から「湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～」を実施しています。当初は2地域で地元自治会を中心にはじめられた活動ですが、平成28年度には6学区9地域で実施されました。

市民ヨシ刈りや湖辺清掃、ヨシたいまつ点火などを、ヨシ帯のある湖辺各地で開催しています。ヨシたいまつ点火では、春の到来と琵琶湖の恵みに感謝するイベントとして、市内外から注目されています。

ヨシの保全・再生に取り組むことで、原風景や豊かな生態系など、琵琶湖の環境を未来へつなぎ、ヨシを用いた産業振興や観光振興など、新しい大津のヨシ文化を生み出します。

